

時 標

新型コロナウイルス感染症によるもう一つの健康危機を危惧しています。長期間の休校や外出自粛などの急な環境変化に置かれた子どもと、その家族の心の健康危機です。

5月7日現在、わが国の感染者累計は1万5300人、死亡を含めた重症数は851人の状況です。対策が一定の効果を上げており、子どもへの健康影響が少しことが明らかになってきた一方で、休校や外出自粛など、これまでと一変した生活は学習の遅れや運動不足につながっており、友だちと会えない寂しさ、連日の患者数や死亡数報道からくる恐怖心など、子どもの心と体両面への健康影響が心配されます。

私の周囲では、子どもが奇声を上げたり、普段以上に甘えたり、外に出ることを恐れるといった相談があります。

ゲームばかりやっている子どもが心配で医療機関を受診させたところ、ゲーム依存症と診断された例もあります。

山梨県警が3月に児童相談所に虐待通告した件数は前年

より効果や、未成年は重症化分の1です。これは、休校に比べて3割増加し、欧米で

子どもの心 コロナから守ろう



山縣然太朗
山梨大大学院 教授

は家庭内暴力が増えているそうです。このような状況はどうぞ家庭にでも起こり得ることで、トラウマとなって後の子供の精神状態に影響を与えるかねず、コロナ禍に匹敵する嚙緊の健康課題と考えます。この対策について、「家庭での過ごし方」「自己診断と

専門家との連携」「地域で子どもを守る」—という視点から提言します。

家庭では、次の三つのポイントを踏まえて生活してみましょう。一つ目は、感染予防の習慣をつけること。手洗い、家庭外での咳エチケット・会話時のマスク着用をマナーとして習慣づけましょう。二つ目は、

やまがた・ぜんたろうさん 1958年山口県生まれ。山梨医科大(現山梨大医学部)卒。医学博士。1999年に同大教授。専門は公衆衛生学、疫学、人類遺伝学。社会医学系専門医・指導医。同大大学院付属出生コホート研究センター長。中央市在住。

2020.5.10